



2026年3月17日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 A C C E S S  
代 表 者 名 代表取締役 社長執行役員 大石 清恭  
(コード番号 4813 東証プライム)  
問 合 せ 先 取締役副社長執行役員 CFO 吉岡 勉  
(TEL. 03 - 6853 - 9088)

## 営業外収益、営業外費用及び特別損失の計上、並びに2026年1月期通期

### (連結・個別)業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2026年1月期第4四半期連結会計期間において下記のとおり営業外収益、営業外費用及び特別損失を計上するとともに、2026年1月期連結業績において、当連結会計年度の実績値が前連結会計年度の実績値から一定以上変動いたしましたのでお知らせいたします。また、当社は個別業績予想を開示していませんが、個別決算における当事業年度の実績値が前事業年度の実績値から一定以上変動いたしましたので併せてお知らせいたします。

記

#### 1. 営業外収益の計上

当第4四半期連結会計期間(2025年11月1日～2026年1月31日)において、外国為替相場の変動に伴い為替差益212百万円を計上することとなりました。これは主として海外子会社における外貨建て金銭債務の評価替えによるものです。その結果、当第3四半期連結累計期間(2025年2月1日～2025年10月31日)の為替差損172百万円が解消され、当連結会計年度(2025年2月1日～2026年1月31日)の為替差益は39百万円となります。

#### 2. 営業外費用の計上

当第4四半期の個別決算において、当社から米国子会社、欧州子会社及び台湾子会社に対する貸付金に関し、各社の純資産の状況を勘案し貸倒損失・貸倒引当金を計3,871百万円計上することといたしました。なお、本件貸倒損失・貸倒引当金は、個別財務諸表上に計上されるものでありますが、連結業績に与える影響はございません。

#### 3. 特別損失の計上

##### 【連結決算】

##### (1) 減損損失

当社グループのネットワーク事業を構成するIP Infusion Inc.及びそのグループ会社において、当第4四半期連結会計期間(2025年11月1日～2026年1月31日)に取得した事業用資産や事務所用設備等を固定資産として計上したうえで、IP Infusion Inc.の業績動向等を踏まえ当該資産計上額70百万円を減損損失として計上いたしました。その結果、当連結会計年度の減損損失は、275百万円となります。

## 【個別決算】

### (1) 関係会社株式評価損及び関係会社出資金評価損

当第4四半期の個別決算において、米国子会社の純資産や直近の事業状況等を勘案し、同社に係る関係会社株式評価損 686 百万円を計上することといたしました。また、欧州子会社においても同社の純資産等を勘案し、欧州子会社に係る関係会社出資金評価損 199 百万円を計上することとしたほか、台湾子会社においても同様に関係会社株式評価損 92 百万円を計上することといたしました。なお、本件関係会社株式評価損及び関係会社出資金評価損は、個別財務諸表上に計上されるものでありますが、連結業績に与える影響はございません。

## 4. 連結決算における前連結会計年度の実績値と当連結会計年度の実績値との差異

(2025年2月1日～2026年1月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前期実績 (A)	15,930	△2,259	△1,884	△5,383	△143.14
当期実績 (B)	19,215	△2,688	△2,635	△3,398	△90.53
増減額 (B-A)	3,284	△429	△750	1,984	—
増減率 (%)	20.6%	—	—	—	—

特に IoT 事業セグメントにおいて、大型案件の納品や顧客側のサービス開始等によって大幅な増収となり、ネットワーク事業セグメントにおいても増収となったことから、連結売上高は前連結会計年度と比べ増収となりました。他方、営業利益及び経常利益については、IoT 事業セグメント及び Web プラットフォーム事業において売上増やコスト削減効果により増益となったものの、ネットワーク事業セグメントにおける研究開発費等の費用増により、赤字幅が拡大することとなりました。親会社株主に帰属する当期純利益については、前連結会計年度において特別調査費用を計上していたこともあり、当期は赤字幅が縮小いたしました。

なお、2025年12月23日付「ネットワーク事業における契約締結及び一部入金に関するお知らせ」でお知らせしました Evollabs Tech FZ-LLC (以下、「Evollabs 社」といいます。)との契約に係る収益認識検討の結果、同案件の売上の多くが 2027年1月期以降に計上予定となっております。また、Evollabs 社との契約に基づき 2025年中に支払いを求める 30 百万米ドルについては、本日時点では全額の回収を確認しております。

## 5. 個別決算における前事業年度の実績値と当事業年度の実績値との差異

(2025年2月1日～2026年1月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円)
前事業年度実績 (A)	6,466	634	△5,775	△153.57
当事業年度実績 (B)	9,359	△3,818	△4,784	△127.44
増減額 (B-A)	2,893	△4,453	991	—
増減率 (%)	44.8%	—	—	—

連結業績と同様に、IoT 事業セグメントにおける大幅な増収の結果、売上高は大幅に増加いたしました。経常利益については、「2. 営業外費用の計上」において記載の子会社向け貸付金に係る貸倒損失・貸倒引当金を計上した結果、前事業年度から大幅に減少し赤字化いたしました。当期純利益については、「3. 特別損失の計上（1）関係会社株式評価損及び関係会社出資金評価損」において記載のとおり、子会社株式及び子会社出資金に係る評価損を計上しましたが、前事業年度における計上額と比べ金額が減少したことや、前事業年度においては特別調査費用を計上していたこともあり、当期は赤字幅が縮小いたしました。

以上